

## 大阪市民、堺市民の『自治』を守れるのか？

京都大学大学院教授 藤井聡

### 1. W 選挙・クアドラプル選挙が意味するもの。

—W選挙は「二敗」（ただし首長選の「現職」勝利は、ほぼ100%確実。過剰な悲観は不要）

—クアドラプル選挙（市長・知事・市議選・府議選）は「一勝三敗」

（市議選で都構想反対勢力が過半数越え

= **これは「大阪市民の都構想・否決判断」である。**）

—大阪市長選で、なぜ、反維新候補が「勝てなかった」のか？

- ・理由1：現職だから。
- ・理由2：「都市型の保守」支持者が、「改革路線」を好み、「左右共闘」を嫌ったから
- ・理由3：大阪市民が「ねじれ」（知事＝維新、市長＝反維新）を恐れたから。
- ・理由4：大阪市民の「維新アレルギー」が緩和したから。  
（＝ 維新体制の長期化 & 「維新の嫌われ者」のフェードアウト）
- ・理由5：大阪市民が「現状」（＝**都構想のない維新政治**）を支持したから。  
⇒ 「10年間の日本の成長」を「維新の成果」と大阪市民が勘違いしたから。  
⇒ 「10年間の日本の成長」を「維新の成果」と維新が喧伝したから。
- ・理由6：「都構想のリスク」が十分に意識できなかったから  
⇒ 反維新候補が「大阪都構想＝毒饅頭」を強烈に主張しなかったから。  
⇒ 反維新（の国会議員）の中に「維新との対立」を嫌う意識があったから。

**→つまり、大阪市民は決して、「都構想」を支持したのではない！**

**→ただし「情報戦争」で維新は圧勝。反維新の情報戦関係者達の**猛省**を促したい。**

### 2. 「大阪市民」の自治は、守れるのか？

—大阪市において「都構想の住民投票」が実現してしまうリスク

・パターン1：市議会の自民党 or 公明党が大阪市民の民意を裏切り、住民投票に賛成する

**↑ 絶対回避すべし！。。と書いたのですが、こうなりそうとのこと**

・パターン2：市議会の反維新勢力の中で、住民投票に賛成する議員が**2人以上出る**。

**↑ 絶対回避すべし！**

・パターン3：公明党本部/創価学会が、衆議院の公明党議員の対立候補の**維新擁立を回避する**ため、大阪市民の民意を無視して住民投票に賛成せよと指示を出す。

**↑ このリスクは、明確に存在・・・原因が何かは不明だが、こうなりそうとのこと**

—「住民投票が不可避」となった場合、どうすべきなのか？

**対策1**：「住民投票日」を、**可能な限り後ろ倒し**にすべし（例：万博まではあり得ない、等）  
～「都構想の真実」の大阪市民の認識の深化に努める。

**対策2**：「都構想導入日」を、**可能な限り後ろ倒し**にすべし（例：万博まではあり得ない、等）  
～「都構想の真実」の大阪市民の認識の深化に努める。

**対策3**：自民党国会議員・府議団・市議団、公明党国会議員・府議団・市議団が、  
**都構想が「大阪」に深刻なダメージをもたらす事を認識し、**  
**「都構想は毒饅頭」「都構想は百害あって一利なし」と、明確に反対を打ち出す。**

**↑このリスクは明確にあり。**

**（事実、公明は「グレーター大阪」の賛成可能性を既に示唆！）**

**だから、大阪のため、勇気を持って、毅然と「都構想反対」を明確化すべし！**

### 3. 「堺市民」の自治は、守れるのか？

—堺市において「都構想の住民投票」が実現してしまうリスク

・**パターン1**：堺市議会も含めた法定協議会が発足し、堺市も含めた特別区設置議定書が成立し、その上で、堺市議会の**公明＋無所属等1名以上が堺市民の民意を裏切り、住民投票に賛成する。**

（現在48議席中、維新13、公明11、自民9、共産6、立民1、無所属6）

※ 推進派が「堺市議会で否決されるリスク」を恐れて、回避する見通し。

**松井氏「政治家の任期の中でグレーター大阪構想なんてできませんよ」と発言**

・**パターン2**：大阪市を含めた都構想が実現。その上で、堺市も含めた法定協議会が発足し、その住民投票が、堺市議会でも可決される。

※ 大阪市で都構想が実現すれば、十分可能はある。

※ ただし、**都構想の真実が白日の下に晒される**ので実現しない可能性も十分あり。

**↑ 兎に角、大阪市での都構想実現を回避することが必要**

### 4. 公明党・自民党・官邸にとって、どのような判断が“合理的”なのか？

- ・**官邸**：憲法改正のために、維新の協力が欲しい。
- ・**公明党**：（延命したい。だから）小選挙区の維新対立候補擁立を絶対回避したい。
- ・**自民党**：（延命したい。だから）公明党の選挙協力が欲しい。
- ・**維新**：（勢力拡大したい。だから）都構想を実現したい。政権に入りたい。

#### ■公明党が避けたいと考えるであろう、リスクと、想定される合理的行動

（リスク1）公明党大阪府議団が、都構想の実現に協力せず、衆議院選で、対立候補が擁立され、大惨敗。

（リスク2）公明党が、「維新対立候補擁立」と引き換えに、維新に協力し、**維新が都構想を実現。**  
そうなると、**結局、「維新にとっての公明党の利用価値」が喪失し、衆議院選挙で、対立候補が擁立され、大惨敗する。**（しかも、都構想実現（+強力な党首擁立）で、維新が大幅に勢力拡大。**自公政権から自維政権の可能性**もあり。）

——> だから公明が採用するであろう、「彼らにとって合理的な行動」とは・・・

・ 維新の台頭を抑え、安定的な自公連立政権を維持しながら、

**「維新への最少の協力」を可能な限り高く売る**と同時に、

**「都構想それ自身」に対して反対**する。

最少の協力：「万博後の住民投票だけ」には賛成。しかし、

それ以前の住民投票や、都構想それ自身に反対

高く得る：確実に全選挙区で、維新対立候補擁立を避ける。

・ 上記の「最善の交渉」を成立させるために、**自民党とギリギリの交渉**を図る。

「我が党は、『万博後の住民投票』を条件に、維新の対立候補擁立を取り下げてもらいたいと考えている。自民党から、維新にこの条件をのむように働きかけてもらいたい。もし、それを自民党が拒否するのなら、我が党は自滅覚悟で、自民党への選挙協力を全て撤回する。」と交渉する。

・ 自民党がこれを蹴れば、自民党は選挙で大打撃を受ける。だから、自民は飲まざるを得ない筈。なので、公明党には、現実的リスクはない筈

#### ■自民党が避けたいと考えるであろうリスクと、想定される合理的行動

(リスク) 公明党が自民党に協力しなくなり、小選挙区で惨敗を喫する。そんな中、**新興勢力(維新等)が拡大し、自民党が下野**する。

——> だから自民が採用するであろう、「彼らにとって合理的な行動」とは・・・

・ 「安定的な自公連立政権の維持」のために、公明党の要求を呑む。

・ (憲法改正など) 利用できる部分だけ利用しつつ、**維新の台頭を抑える**。

#### ■維新が避けたいと考えるであろうリスクと、想定される合理的行動

(リスク) 都構想がダラダラと実現しない間に、党勢が衰え、消滅してしまう。

——> だから維新が採用するであろう、「彼らにとって合理的な行動」とは・・・

・ 自民・公明に「合理的な行動」をとらせず、とにかく、現官邸の顔色を窺いながら、「憲法改正への協力」を餌に、どうにかこうにか、官邸・自民党に食い込みつつ、住民投票に持ち込み、都構想を実現し、党勢を拡大。頃合いを見て、「強力な党首の擁立」でさらに盛り上げ、政権を奪取する。

(——> そうなると、米中への「売国」が加速し、国体堅持すら困難となるリスクが極大化)

自民・公明が、合理的である限り、都構想の実現、維新の台頭、はあり得ない。

市民、国民のためは元より、**「自らの延命」のために、最善を尽くす合理性**さえあれば、

**最悪の悪夢は回避**できるはずである。